

# 長崎と天草地方のキリスト教の歴史

Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region

## I 宣教師不在とキリシタン「潜伏」のきっかけ

- 1550 ザビエルが平戸で宣教する(長崎地方にキリスト教が伝来)
- 1562 平戸の春日集落に「慈悲の組」が設立される
- 1563 大村純忠が横瀬浦で洗礼を受ける(日本初のキリシタン大名)
- 1569 宣教師がトードス・オス・サントス教会を長崎の桜馬場に建設する(長崎で最初の教会堂)
- 1580 有馬晴信が日野江城で洗礼を受ける
- 1582 天正遣欧使節が長崎から出港する
- 1587 豊臣秀吉が伴天連追放令を發布する
- 1590 天正遣欧使節が長崎に帰着する
- 1597 豊臣秀吉が宣教師や信徒ら26名を西坂で処刑する(日本二十六聖人の殉教)
- 1603 江戸幕府が開かれる
- 1604 有馬晴信が原城を完成させる

## II 潜伏キリシタンが信仰を実践するための試み

- 1614 江戸幕府が全国にキリスト教禁教令を發布する
- 1622 宣教師や信徒ら55名が西坂で処刑される(元和の大殉教)
- 1628 「絵踏」が始まる
- 1630 寺請制度が始まる
- 1637 島原・天草一揆が起こる(~1638)
- 1639 ポルトガル船の来航を禁止する
- 1641 オランダ商館を平戸から長崎の出島へ移す→海禁体制が確立する(鎖国)

## III 潜伏キリシタンが共同体を維持するための試み

- 1644 最後の宣教師が殉教し、国内に不在となる
- 1657 大村領内の潜伏キリシタンの存在が発覚する(郡崩れ)
- 1660 豊後で潜伏キリシタンの摘発が始まる(豊後崩れ)
- 1661 尾張で潜伏キリシタンの摘発が始まる(濃尾崩れ)
- 1790 長崎の浦上で潜伏キリシタンの摘発が起こる(浦上一番崩れ)
- 1797 大村藩と五島藩の間に、百姓移住の協定が設立する
- 1805 天草で潜伏キリシタンの摘発が起こる(天草崩れ)
- 1842 長崎の浦上で潜伏キリシタンの摘発が起こる(浦上二番崩れ)

## IV 宣教師との接触による転機と「潜伏」の終わり

- 1854 日米和親条約により開国する
- 1856 長崎の浦上で潜伏キリシタンの摘発が起こる(浦上三番崩れ)
- 1859 函館、横浜とともに長崎を開港する
- 1862 ローマで日本二十六殉教者の列聖式を行う
- 1863 パリ外国宣教会の神父2名が横浜から長崎に入る
- 1864 居留地の西洋人のために大浦天主堂を建設する
- 1865 浦上の潜伏キリシタンが大浦天主堂で宣教師に信仰を告白する(「信徒発見」)
- 1867 長崎の浦上で潜伏キリシタンの摘発が起こる(浦上四番崩れ)
- 1868 明治政府が発足し、改めて禁教の高札を掲示する  
五島で潜伏キリシタンの摘発が始まる(五島崩れ)
- 1873 寺請制度が廃止され、禁教の高札が取り除かれる(キリスト教の黙認)  
→以後、カトリックに復帰した各地の集落に教会堂が建設される
- 1875 大浦天主堂の隣に神学校を建設する
- 1889 大日本帝国憲法を發布する(信教の自由を明記する)
- 1918 五島に江上天主堂を建設する

